

委員会調査(研修)報告書

NO.

令和3年 5月24日

胎内市議会議長
天木 義人 様

(報告者) まちづくり常任委員会
委員長 小野 徳重

まちづくり常任委員会閉会中所管事務調査について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和3年5月12日 至 令和3年5月12日 泊 日 (日間)	調査・研修 場 所	下赤谷地内 樽ヶ橋遊園
調査・研修 事 項	樽ヶ橋遊園の現状と辺地の総合計画に基づく整備状況について		
調査・研修 出席者(参加者)	小野徳重委員長、羽田野孝子副委員長、渡辺宏行委員、桐生清太郎委員 渡辺 俊委員、薄田 智委員、渡辺栄六委員、坂上清一委員、 八幡元弘委員、坂上隆夫委員 天木義人議長		
相手方(対応者)	南波商工観光課長、他担当職員2名		

調査の結果または概要

※ 休憩所「たるる」において南波商工観光課長から事業概要と進捗状況の説明を受けた後、現地調査を行う。

樽ヶ橋遊園は旧黒川村当時の昭和52年開園し、当初動物舎はなかったがその後動物の展示やメリーゴーラウンドを導入、時代のニーズに合わせてリニューアルするなどして、現在でも地域住民はもとより近郊からも多くの方が来園するなど、長年愛され続けてきた施設である。

近年の年間入込者数は、「アルパカ」が導入された平成23年度以降30,000人前後で推移していたが、大型遊具の新設や休憩所の新設等、園内の整備が進むと同時に入込者数も伸び、令和元年度には47,490人で過去最高となった。

しかし開園以来施設全体が経年による老朽化が著しく、特に動物舎については著しい劣化が見られインフラ整備の必要性が顕著になっている。

胎内市東部地域における観光拠点として重要な施設であることから、辺地事業債を活用し平成29年度から令和3年度までの5か年計画で園内整備を進めている。この4年間で大型遊具の新設、休憩所「たるる」の新築、受付棟の新築、サル舎、クマ舎、動物ふれあい舎の新築、また入園料についても年間パスポートの新設、料金の改定を行うなど、幅広い年代層の方に楽しんでいただける施設となるよう改善を図っている。今年度中に旧動物舎の撤去を行い工事の完結となる予定である。

調査の所見・感想

※ 新築された受付棟、動物舎などは以前の建物と比較にならないほど立派なものではあるが、建物だけ新しくして展示動物が以前と同じでは来園者の増加も望めないので新たな展示動物が必要と感じた。

大型遊具の設置により入園者数は増えたが、まだ遊具の数が不足だという声もあるので幼児から小学生までの年代に応じた遊具の増設が必要と思われる。

休日等の混雑時における駐車場の整理及び受付時の対応についても課題があるので早急な対応策が必要である。

緑の木々に囲まれ自然豊かな環境の中に小動物を展示した遊園は珍しく、次世代を担う子どもたちのためにも末永く存続しなければならない施設であると感じた。